



研究主題

一人一人の主体的な学びを育む学習展開の工夫

～学びをつなぎ、深める子どもの姿を目指して～

I 研究の概要

1 主題設定の理由

昨年度の成果

- 「追小学びのプロセス」の実践により、既習事項を基に問題解決学習の流れの理解をし、課題解決する力の向上
- 学びや変容を自覚できるように「振り返る」活動を重視したことによる振り返りの内容の充実
- 算数科では「見方・考え方」を働かせた授業を行うことで、算数の学び方・自己の考えをもてるようになった
- 電子黒板による資料の提示、タブレット端末によるアンケートや評価等、学習におけるICT機器の活用

昨年度の課題

- 「追小学びのプロセス」の「追究する」場（学び合い）の充実
- 学習内容の基礎基本の定着
- ICTの更なる効果的な活用



目指す子どもの姿

思いや考えを伝え合い、
学びを広げたり
深めたりしようとする子ども

育てたい資質・能力

問いを発する力
考えを伝え合う力
学びの価値に気付く力



2 研究の仮説

「追小学びのプロセス」の「追究する」場面で、子どもが考えを広げたり深めたりできるように、それぞれの考えを比較・検討するなどの対話的な学びを工夫することで、考えを伝え合う力が身に付き、さらに、子どもが学びの習得を実感し学びの価値に気付く力が育成されるのではないかと。

3 研究の重点と内容

「追小学びのプロセス」による授業改善

重点1

学びをつなぎ、広げ 深める授業づくり

- 単元計画、課題設定の工夫
- 各教科等の「見方・考え方」を働かせる場面の意図的な設定
- 「追究する」過程における、対話的な学びの工夫

重点2

学びを自覚化できる 授業づくり

- 「まとめる」「振り返る」活動の重視
- 子どもの変容の見取り、学びの価値付け
- 自己評価、相互評価の工夫

重点3

ICTの効果的な活用

- 興味・関心を高め、主体的な学びの展開
- 考えの伝え合いや、学びの深まりの支援

学びの基盤づくり

言葉の質と量を高める

心を耕す

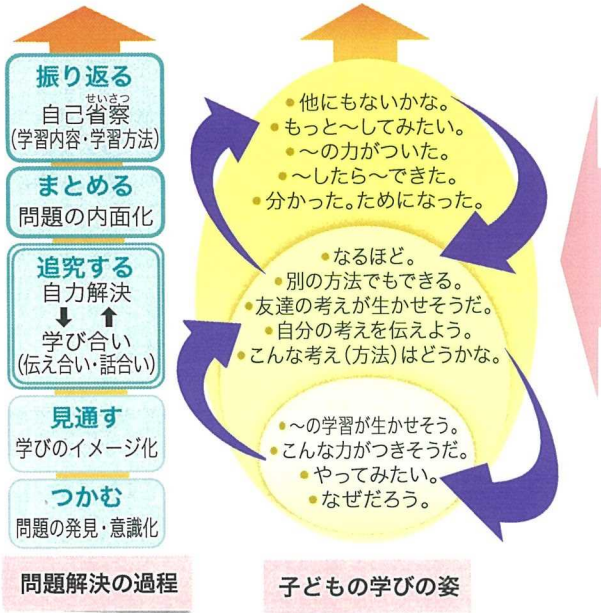
学びを支える

追小学びのプロセス

主体的に学ぶ子ども

問題解決に関わる資質・能力の向上
 思考力・判断力・表現力の高まり

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」に照らして価値付ける



II 研究の実際

協働的に解決する学習過程の工夫

1年
算数科

「たしざん」 (4/10)

ねらい

1位数+1位数で繰り上がりのある加法の計算の仕方について、10のまとまりに着目して考え、ブロックや加数分解、被加数分解を用いて説明することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

くりあがりのあるたしざんは、
 どうやってけいさんするのかな。

追究する

どのように7と9を足したのか、説明することができるようにするために、ブロックを操作したり式を図にかき表したりして話すように促す。



★自分と同じ考えの人を見つけ、考えを共有している。
 同じ考えの人同士で協力して発言をつなぎ、全体に説明する。

思考を深めるための学び合い

2年
算数科

「九九の表」 (4/6)

ねらい

九九表を見て、乗法の分配法則に着目して考え、アレイ図や式を用いて説明することができる。
 【思考力、判断力、表現力等】

合体のきまりは、ほかのだんでもいえるのだろうか。

追究する

自分の考えを確認したり、友達の考えを理解したりするために、同じ段を選んだグループで伝え合う場を設定する。



★乗法の分配法則について、九九表やアレイ図を使って式に表すことで、説明の仕方の違いに気付いている。

学びの自覚化

3年
外国語活動

「This is for you.」 (4/5)

ねらい

サンキューカードを作るために、相手に伝えるように工夫しながら欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。
 【思考力、判断力、表現力等】

カードを作るために、ほしいものを
 たずねたり答えたりしよう。

追究する

中間評価で気持ちのよいやり取りをしているペアのやり取りを再現させ、どのような点がよいかをみんなで考え、後半はそれを生かしたやり取りとなるように促す。



★アイコンタクト、クリアボイス、ジェスチャー、スマイルなどコミュニケーションのポイントに気を付けながらやり取りをしている。聞き手は、発表児童のよかったところを考え、後半の自分のやり取りに取り入れようとしている。

協働的に解決する学習過程の工夫

4年 総合的な
学習の時間

「支え合って生きる
～みんなの幸せ～」(9/14)

ねらい

様々な人々の抱えている困難さや大変さ、それを克服するための工夫について、これまで調べてきたことを伝え合い、考えを深めたり広げたりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

これまでに調べてきたことを伝え合い、
ふくしについての考えを深めよう。

追究する

各コースを4つのグループに分けてワールドカフェ方式での発表活動を行い、調べたことを伝えたり、質問や感想を伝え合ったりすることで、ふくしについての考えを深めたり広げたりすることができるようにする。



★それぞれのグループで調べたことを発表し、それを聞いたグループの児童が質問をした。質問に答えるためにさらに考えを深め、発表のスライドを巻き戻して見せながら詳しく説明する場面が見られた。

対話的な学びの工夫

5年
算数科

「合同と三角形、四角形」
(11/15)

ねらい

三角形の三つの角の大きさの和が 180° であることを基に、多角形の内角の和の求め方を考え、説明することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

多角形の角の大きさの和は、
どのように求められるだろうか。

追究する

どのように多角形の角の大きさの和を計算したのか、グループで考える時間を確保したり、付け足しをしたりして、学び合いを進行する。



★補助線を引いた図を示しながら、自分の考えを説明している。また、自分の考えと比較しながら、友達の説明を聞いている。

思考を深めるための学び合い

6年
算数科

「比」(7/9)

ねらい

比の性質や図を用いて、全体の数量から部分の数量を求める方法を考えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

部分どうしの比と全体の量が分かっているとき、
部分の量は、どのように求めることができるのだろうか。

追究する

自力解決で出た考えを練り上げる場を設定したり、付け足しや他者説明などの手立てを工夫したりしながら学び合いを進めた。



★自力解決で求めた答えが合っているか、見通しの段階で予想した答えと比較・検討している。

思考を深めるための学び合い

花組 自立活動
生活単元学習

「花組ゲームランドへ
ようこそ」(3/7)

ねらい

ゲーム交流会での自分の役割を理解し、遊び方の説明を考えることができる。

【自立活動：3人間関係の形成、6コミュニケーション】
【生活単元学習：思考力、判断力、表現力等】

お客さんにゲームの仕方を分かってもらうには、
どのように話したらよいだろうか。

追究する

相手意識をもち、分かりやすく伝えられるように、ポイントを確認めながら、ゲームの仕方の説明を練習する時間を設ける。



★お客さんにゲームの仕方を分かってもらうためには、どのように話したらよいのかを話し合っている。

Ⅲ 研究の成果

子どもの姿から

◎「追小学びのプロセス」の実践により、見通しをもった問題解決的な学習の仕方が身に付き、既習事項を生かし次の課題に取り組むことができるようになった。

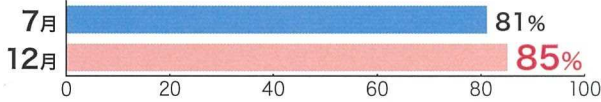
◎振り返りのための視点を示したことで、価値のある振り返りをすることができた。

◎様々な教科でICTを活用した学習ができたことで、広がりや深まりのある伝え合う活動になった。

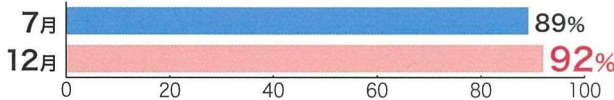
アンケート結果から

学習アンケート 肯定的な回答の割合(%)

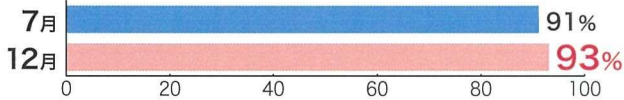
●勉強は好きですか。



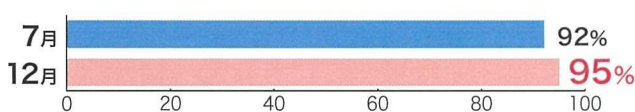
●授業は楽しいですか。



●難しいめあてや問題でも、あきらめずに考えていますか。



●コンピュータやタブレット、電子黒板を使った授業は分かりやすいですか。



教師アンケート 4点満点



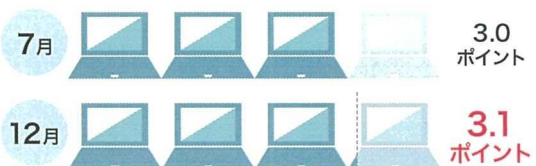
●「追小学びのプロセス」に沿った授業の流れになっているか。



●学習を振り返る場面を大切にしているか。(振り返りの視点・次時への見通し)



●授業の中で、必要に応じて ICT を活用しているか。(PC、タブレット、電子黒板など)



Ⅳ 研究の課題

令和5年度県学習状況調査質問紙の結果から、「自分の考えを深めたり、広めたりすることができていると思う」という質問に対する肯定的な回答の割合が、4・5・6年生とも県の平均を下回っていた。自信をもって話すことができるような雰囲気づくりやペア・グループ活動を生かした追究する場面での学習形態の工夫が必要。

- ▲「追小学びのプロセス」の「見通す」「追究する(学び合い)」場面の充実
- ▲学習内容の基礎基本の定着
- ▲ICTの更なる効果的な活用(学び合い・振り返りの場面等)



来年度の方向性

- 一人一人の子どもたちが何を学ぶのか見通しをもって授業に向かうことができる導入の工夫。
- 児童用タブレットの具体的な使用方法の共有化、効果的な活用のあり方(学び合い・振り返りの場面)を探っていく。
- 友達の考え等から、子どもたちが自分の考えを広げたり深めたりできるような授業改善の工夫。

